

# 抗議の声 各地で

閣議決定を受けて京都市下京区の四条河原町交差点には、市民団体「共謀罪」を4度目も廃案にさせるALL京都」のメンバーら約20人が集合。反対の署名活動に取り組み里中えつ子さん(59)は「言論の自由を奪われかねず、強い危機感を感じる」と訴えた。

学者や法律家は参院議員会館(東京都)で抗議の集会を開いた。足立昌勝・関東学院大名誉教授(刑法)は、法案中の「テロリズム集団」に定義がないとし、「内容的にこんなに未熟な法律をよく閣議決定してきたものだ」と批判。藤田進・東京外大名誉教授(アラブ現代史)は、政府がテロ対策を強調している点について「イスラムとテロリズムを結びつけるアメリカの立場を無条件に追認している危険だ」と述べた。



●雨の中、抗議活動をする参加者  
●21日前、首相官邸前竹花徹朗撮影  
●閣議決定に抗議する人々  
●午後、京都市下京区、久保保持撮影

# 「共謀罪」まだ監視強めるのか

## 市民や労組 警察の動向注視



講演する船田伸子さん

署は施設の予定地で自然破壊や健康への影響を心配

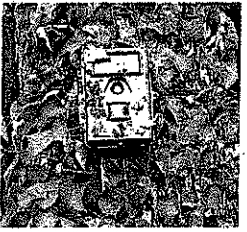
岐阜県大垣市の船田伸子さん(60)は、自分が知らないうちに警察の情報収集の対象になっていた経験がある。「このうえ共謀罪ができたらこれだけ怖いか、想像してはダメだ」と。21日夜、地元の大垣であった「共謀罪」を考える集会で、自身の体験と監視への恐怖を語った。

## 「市民が相互不信」

### 病歴を漏らされた女性

犯罪を計画段階で取り締まる「共謀罪」法案が21日、国会に提出された。内心の自由を侵しかねないこの批判は根強く、今後も激しい議論が予想される。警察に監視されてきた市民運動家や労働組合関係者は警戒を強め、抗議の声をあげた。

する住民の勉強会が始まったことを問題視し、企画した住職や農家の情報を同社に提供、「つながる」といって、勉強会とは無関係の船田さんや市民運動家の実名を伝えた。「病気で、すぐ次の行動に移らなければならない」と船田さんの健康状態にまで触れていた。



昨年6月、駐車場を映すように木に設置されていたカメラ  
大分県別府市、関係者提供

## 「無関係でも対象」

### カメラ設置された連合

大分県別府市にある連合大分の支部などが入る建物、矢須田土・事務局長が敷地内に隠されていたカメラ2台に気づいたのは昨年6月24日。参院選公示の2日後だった。

映像を再生すると、出入りする車のナンバーや、車に乗り降りする自身の顔が鮮明に確認できた。動きを感じて録画するカメラで、選挙とは無関係の市民の姿も。矢須田さんは「誰

務所も休職。風力発電の問題はほとんど知らなかったのに、警察が自分の名前を挙げていたことに驚いた。警察庁警備局長は15年6月、国会でこの問題を問われ、「通常行っている警察業務の一環」と答弁。県警も同社も謝罪していない。

政府は今回の法案について、市民団体や労働組合は対象外としつつ、犯罪を目的とする「組織的犯罪集団」に「変化した場合は対象になる」と説明する。「変化したかを、だれが決めるのでしょうか」。船田さんには疑問だ。

病歴については限られた人にしか伝えていなかった。誰が警察に漏らしたのか、いつも見張られていたのか。議事録が明るみに出て疑心暗鬼に陥った。

「市民がお互い信じられなくなる」。船田さんはそれが怖い。(編集委員 伊藤智恵)

## 「悪用 歴史の教訓」

### 戦前の取り調べて死亡 親族

「政府に悪用される可能性がある法律は、必ず悪用される。それが歴史の教訓です」。1937年4月、治安維持法の思想犯として取り調べを受け、死亡した反戦教師の倉岡愛穂さん。親族の勲子さん(88)は京都府京丹後市に、今回の法案に強い懸念を示す。

愛穂さん今も今の京丹後市出身。軍国主義的教育をよしとせず、子どもたちの自主性や自ら考えようを尊ぶ「新興教育運動」を進めていた。神戸市内の小学校に勤めていた86年、当時の御影警察署に連行された。長期間の拘束と過酷な取り調べが盗撮しているんだ」と不審に思い、その日のうちに別府署に相談した。